

UNIVERSITY CONSORTIUM Kyoto



財団法人 大学コンソーシアム京都
The Consortium of Universities in Kyoto
URL <http://www.consortium.or.jp>

会 報

2008.4

No.31

P1~2 学びの座談会

「学び」と世代の間にあるものは？

P3~4 京都学術共同研究機構

季刊アカデミア

P5 大学コンソーシアム京都インターンシップ生実習報告より

京都女子大学・短期大学部の秘密を探る！

P6 TOPICS

PROJECT REPORT

P7 Information

近日開催予定の行事・イベント



【京都経済短期大学】京都市西京区大枝東長町3-1

特集

学びの座談会

「学び」と 世代の間にあるものは？



本年度の会報の特集は、それぞれのジェネレーションギャップを、学びに対する考え方、捉え方で表現してきました。今回が最終号になります。

第1回目(28号)は二人の高校生に、第2回目(29号)は大学生に、第3回目はミドル層の女性お三方に、「学び」に対する価値観を語って頂きました。今号は、教育者としてまた熟年期を迎えたお二人に豊富な人生経験の一端をご紹介します。

インタビューは、前回と同じくシチズンシップ共育企画代表の川中大輔氏にお願いしています。

あとで効く言葉の薬

川 中：今回は高校生・大学生・ミドル層と続いてきた「学びの座談会」の最終回になります。そこで、これまでの座談会をお読みにになった感想を最初の手がかりにして、本日のお話を進めていきましょう。

岸 本：「学び」とは学校で勉強するだけではないと感じています。これまでの座談会では、「学校の学び」につながっているような感じのものが多かったように思えました。学問的な事柄に限定するとやはり学校は広く、大きな存在ですが、自分自身の人生を振り返ってみるといろいろな人や出来事と出遭う中で、「人間」とは、「生きていく」とはこういうことなのかと学んできました。ですから「学び」とは、知識を増やすということだけではないと思っています。

角 谷：学校での勉強はもちろんですが、人生の進むところに「学び」の機会があります。私は海外留学中の22歳の時に、交通事故に遭って車椅子の生活を余儀なくされた。この出来事が人生を大きく左右しました。まず、将来どのように生きていこうか、というのが切実な問題であった時に、ドクターに頂いた励ましの言葉が今でも心に残っています。「失ったものを数えるな、残されたものを活かさない。」というものです。

川 中：大変なご苦労があったのですね。暖かい言葉でもあり、厳しい言葉でもありますね。

岸 本：人から聞いた言葉が後になって「ああそういう意味だったのか」とって、感慨を深くすることがありますね。「学び」としての体験は、何年も経って効いてくる薬のようなものではないかと思えます。

角 谷：ですから、私は、教育というのは、何年もたってから効く薬を処方するようなものだと思います。

川 中：人生経験が豊富なお二方にお伺いします。実際に学校以外で得られた「学び」について、もう少し例示をいただけると、「学び」の幅が見えてくるのではないかと思います。

岸 本：今と昔の若者の学ぶ姿勢について、先日、角谷先生と二人で話していたのですが、今は社会全体が即効性や実用

性を求める時代です。高校生でも「これをやって何になるの?」という質問が昔より増えた気がします。授業中に余談をすることは最近では好まれないこともあります。余談から学ぶものが多くあるのに、それが「学び」と理解されていない。教養を磨く、身につけるにあたっては、余談や雑談から行間を読みながら、吸収する部分も大きいと思っています。最近は表面的な文字を追うことが中心になっていますね。

角 谷：言語を学ぶ際に、言語をコミュニケーションのツールとしか理解していないのが現実です。もちろん、ツールとしての役割は大切な事です。が、一歩踏み込んで言葉を味わう境地にはなかなか辿りつかないようです。もう少し深く作品を読んで味わう、余韻を楽しむところまで到達して欲しいなと思っています。

川 中：学びの幅は、学びの興行きとも関係があるようですね。

角 谷：今は情報が溢れ過ぎており、これは面白い!と思った情報でも、その情報を咀嚼しきるまでに、次の新しい情報が入ってきて本当の意味を理解する前に次の情報に興味が移ってしまうことがあります。情報の取捨選択も本当の意味ではできていない状態です。昔は、じっくり一つひとつの情報について考える時間があったので、普通に情報を大切に扱っていましたね。

四十代で統合される学び

川 中：先ほど、何十年が経って効いてくる「言葉の薬」というお話がありましたが、効果が実感できるのはおいくつ位からなのでしょう。

岸 本：やはり40歳を過ぎた頃でしょうか。私自身の例で言えば、今でも迷いはありますが、特にそれ位迄は生き方について、欲もあり、迷いも深かった気がします。それが40歳位で、今の仕事ややはり一番やりたかった仕事なんだと思うようになり、腰がすわりましたね。それまでは、人生の軸がふらふらしている感じでした。

川 中：覚悟が決まって軸が落ち着いてくることによって、自分とこれまでの「学び」を結び付けることができてるのでしょうか。生きていることそのことが「学び」だということですね。

角 谷：結局は、そこに行き着くと思います。私の場合、事故に遭って、初めて真剣に自分自身の心と向き合いました。そして体のリハビリテーションと共に、他の誰ともちがう道を、ゆっくりとマイペースで進むしかないと学びました。車椅子生活に送ることになったおかげで、さまざまな出会いを体験しましたし、多くの先生や友人、先輩、後輩にも助けられました。それら全ての体験が、いわば私の「学び」のチャンスでした。



大学非常勤講師
角谷 美知先生

岸 本：角谷さんの生きる事に対する前向きな姿勢や自立心は、そういった体験による「学び」によって、手に入れられたと思うのです。最近「人間力」という言葉が使われますが、角谷さんにはそれが備わっているからこそ、いろいろな場面で多くの人が力を貸してくれるのではないのでしょうか。

川 中：人間力を鍛えていくためには、どういうことが必要なのでしょう。

岸 本：私は、自分と自分が語り合うためには、「自分の言葉」が必要ではないかと考えています。今の若い人に欠けているものがあるとしたら、『思索のための言葉』でしょう。日常会話とは違う、自分と対話し考えるための言葉です。そうした言葉を手に入れて、自分と向かい合って話すことが出来る人になって欲しいと思います。それが人間的な厚みをつくるのではないのでしょうか。

角 谷：自分の心の中で感じたこと、考えたことまでを伝えられるように即席ではなく「思索する言語」のレベルまで、じっくり時間をかけて、深く学んで欲しいですね。

川 中：今の時代の不安感から「すぐに役に立つ学び」へと若者を駆り立てているのではないのでしょうか。「後から効く学び」もあるのだというメッセージを上世代がしっかり出すことが「ゆったりとした学び」へと関心が向き、「人間的な厚み」が作り出させるものだと考えています。

思索のための言語の獲得

川 中：先ほど、「思索のための言語」というお話がありましたが、劇作家の平田オリザ氏は「対話」と「会話」の違いを、「会話」はいわゆるおしゃべりで、「対話」は双方の価値観を折り合わせていくコミュニケーションとの解説があり、対話の力を身につける教育を行うべきだと仰られています。岸本先生は、「思索のための言葉」が必要と言われました。では、「思索のための言語」や「対話の力」を鍛えるために何が必要なのでしょう。

角 谷：私たちの世代で考えれば、やはり読書になるでしょう。昔は、学生時代にこれだけは読んでおかないと格好つかないと言われる教養書がありました。

岸 本：そうですね。私の高校時代にはロマン・罗兰、ドストエフスキー、原口統三を読みました。その後、高橋和巳や吉本隆明などが流行りました。こういったものは、筆者と自分が対話しているという感じで読んでいましたね。

角 谷：私たちが学生の頃は、普段の会話では使わない語彙は本の中で学んでいました。その意味で、私は高校までの国語教育がとても大事であると思っています。言葉で深く物事を考える、深く読む、理解することが出来なかったら、他の言語を習得する意味が薄いのではないかとさえ思います。また、一冊の本を二度三度と読み返すと自分の読みが変わっていくものですが、その中で自分の考え方の変移に気づき、自己の成長をつかめますね。

岸 本：「読み捨て」ではなく、繰り返し読むことも大事ですね。言語というコミュニケーションツールという側面にどうしても目が行きがちです。しかし、それだけではないということを理解して欲しいと思います。会話の言語と対話の言語と言う言い方が分かりやすいですかね。

川 中：そうですね。繰り返し読むことで内化していくということでしたが、そのためには「背伸びした読書」が必要ですね。時間が多くある学生には、筆者と格闘せざるを得ない本へチャレンジして欲しいものです。ところで、岸本先生は、美術の専門学科の先生をされておられますが、芸術作品をつくる上では、自分との対話が必要不可欠ですね。

岸 本：そうですね。今の子はテレビ育ちで、どうしても読書の時間が削られてしまっています。作品を制作する学生は、突き詰めて自分を見つめようとする人が多くいるので、自己との対話の言葉がないと考えが進みません。

最近、言語教育を重視しようと言われていますが、本当はそれ以前の部分が大切だと思っています。その一つが、母親の読み聞かせて

あり、母親との対話だと思っています。今は、母親も忙しく子どもをテレビの前に座らせて、子守をテレビにさせている時代ですから、子どもは結構難しい言葉を知っています。しかし、その言葉が一人の人間から語られたものではなく、バラバラのメディア、バラバラの人から音や文字として伝わってきたもので、そういう中で発達してきた言葉は、「自分の言葉」とは違うものと私は思っています。

角 谷：私もそう思います。本当に言葉の意味を理解していることにはならないですね。人と人が直接に対話するということは、愛情と一緒に言葉が出てくるというものではないのでしょうか。テレビやコンピューターの画面から出てくる言葉とは違うのではないかと思います。母親と赤ちゃんの対話のように、愛情や情感を含めた言葉を赤ちゃんは生まれる前から感じたり、受け取ったりしているのではないかと思います。

「学び」とは「生きること!」

川 中：最後にそれぞれにお伺いしたいのですが、これから「学び」とどう付き合っていこうとお考えですか。

角 谷：私は小さいころから、結構色々なことに興味があり、習い事を沢山してきました。日本の文化に関して、学校教育の枠の中であまり教えられていないことや切り捨てられてきたこと、例えば日本舞踊やお琴、お謡いなどについて学んできました。将来、時間ができたら、専門の勉強以外にかつて嗜んだ習い事の中で、またできるものに取り組んでみたいと思っています。それに大学時代から続けている歴史遺産や美術館めぐり、音楽会、演劇鑑賞にももっと時間をかけたいですね。

岸 本：私は、「定年退職した後はどうなるのだろう?」と実は凄く不安です。いろいろな学びの場でも結局は自分の仕事に繋がっているところがあって、「さあ明日から好きに勉強してもいいよ」と言われても迷うかもしれませんが、自分が今まで仕事上でも興味を持ち続けた古典作品をじっくり読みたいですね。あとは、あてもない旅に出て、いろいろな人と出会って様々なことを語り合いたいですね。

川 中：それでは、最後に、本日の座談会を振り返っていただいて、改めて「学ぶ」ということを一言で言い表すと何になるのでしょうか。

角谷・岸本：それはもう「生きること」そのもの。

川 中：そういう大きな視点で捉えていくということが大事であることを様々なエピソードからお示しいただき、本日はありがとうございました。今日の出会いが私にとっては「新しい学び」を頂くことになったと思っています。

角谷・岸本：ありがとうございました。

川 中：今回の座談会では「自己との対話」が軸になって話が展開され、「対話」のためには「言葉」を豊かにする必要が説かれましたが、私がお二人の先生の学びのライフヒストリーを伺いながら感じたのは、自己と向き合うための「問い」を立てる力の必要性です。自らの生き方／死に方と向き合う骨太な「問い」を立て、持ち続けることが、学びの幅を広げてくれることになるのではないのでしょうか。迷い続けるからこそ、学びを求め、そして学びから得る。そのように思います。

(編集:重田 裕之)



川中 大輔 (シチズンシップ共育企画代表)

1980年生まれ。ファシリテーター。立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科修士課程修了。野外教育や不登校児童支援に取り組むNPO法人プレーンビューマニティ副理事長、社会事業家支援に取り組むIIHOE[人と組織と地球のための国際研究所]フェロー、(財)大学コンソーシアム京都研究主幹などを経て、(財)大学コンソーシアム京都リエンゾオフィスアドバイザー。「学ぶこと」と「社会にかかわること」の両方のおもしろさがわかる「学びのデザイン」に関心を寄せている。2001年から全国各地でNPOマネジメント研修や市民教育ワークショップ、教育ファシリテーター育成を担当。大阪経済大学大学院兼任講師、大阪成蹊大学芸術学部非常勤講師ほか。

「共同研究プロジェクト」の紹介

研究課題

「京都門前町総合調査プロジェクト」



京都学術共同研究機構の「京都門前町総合調査プロジェクト」（プロジェクトリーダー代理杉本 理）は、2005年（平成17年）にスタートした共同研究である。

このプロジェクトの前身は、2001年にさかのぼる。京都市より東西両本願寺の門前町研究を依頼された系列大学の河村能夫氏（龍谷大学経済学部教授）と佐々木令信氏（大谷大学文学部教授）が中心となり、龍谷大学・大谷大学・佛教大学・京都府立大学・同志社大学・種智院大学の研究者が、それぞれの専門分野を生かした学際的研究を通じ、東西両本願寺の門前町を調査・研究を実施したのである。

この研究会が、新たに「京都門前町総合調査プロジェクト」として、京都学術共同研究機構の京都学のプロジェクトとして位置づけられ現在に至っている。

本プロジェクトの共同研究の集大成と、京都市民の方々への成果還元を目的として、2006年11月26日大谷大学において、種智院大学学長頼富本宏氏を講師としてお迎えし、「門前町の持つ『力』」と題して基調講演の後、河村能夫氏・近松誉氏（東本願寺）・加藤眞吾氏（清水寺）・後藤典生氏（高台寺）をパネリストとし、宗田好史氏（京都府立大学）のコーディネーターの下でパネル討論を行った。このシンポジウムでは市民の方々約80名の参加を得て、東西両本願寺を含めた京都門前町の歴史・京都の門前町の景観保全と活性化をめぐり、活発な意見討論がなされた。

さらに、こうした共同研究の成果は、河村能夫氏編著による、龍谷大学社会科学研究所叢書『京都の門前町と地域自立』（晃洋書房）として、昨年1冊の成果として刊行された。

2007年度、本プロジェクトの最終年にあたり、共同研究で

は、二つの研究の重点を設けて取り組んできた。第1の研究の重点が、東西両本願寺の門前（寺内）の歴史的景観の復元作業を行うこと。第2の研究の重点が、現在の門前町の経済構造・住人意識・元学区との深い地域的つながりなど、現在の門前町の実態解明の作業を行うこと。以上の研究の重点のもとで共同研究がなされてきた。

第1の歴史的景観の復元作業をめぐっては、門前の商業や住人に対して深い影響を与えた東本願寺高倉学寮（大谷大学の前身）の歴史、近世東本願寺と京都の伝統文化茶道との歴史的強い結びつきの検証による門前町の文化、東西両本願寺の門前町をめぐる江戸時代作成の絵図の解析、以上の方向性から共同研究がなされてきた。

第2の現在の門前町の調査研究作業をめぐっては、門前町をめぐる観光などの現状と人口動態の調査分析、門前町の経済構造とその特徴の研究、そしてこうした実態からみた今後の経済的展望と必要な諸政策の構築、以上の方向性から共同研究が進められてきた。

こうした一連の研究成果は、『京都学術共同研究機構紀要』にまとめられる予定である。

なお、2007年度のプロジェクト研究員は以下の通り。
プロジェクトリーダー代理：杉本 理（大谷大学講師）



プロジェクト研究員：頼富 本宏（種智院大学教授）
河村 能夫（龍谷大学教授）
井口 富夫（龍谷大学教授）
舟橋 和夫（龍谷大学教授）
岡村 喜史（龍谷大学准教授）
李 フーピン（龍谷大学准教授）
佐々木令信（大谷大学教授）
東館 紹見（大谷大学講師）
堅田 理（大谷大学講師）
宗田 好史（京都府立大学准教授）
渡邊 秀一（佛教大学准教授）
村上 忠喜（京都市文化財保護課）



2008年度プラザカレッジ京都学講座のご案内

「五感でよむ源氏」

【場 所】キャンパスプラザ京都

【時 間】14:00～15:30

【定 員】250名

【受講料】全10回受講 事前受付10,000円、当日受付1,500円
(本財団加盟校学生全10回受講事前受付3,500円、当日受付500円)

今年は『源氏物語』が世に出てから千年紀を迎える年にあたります。京都学では、2008年度プラザカレッジ講座は源氏物語を取り上げることとし、「五感でよむ源氏」と題して、大学の研究者をはじめ第一線で活躍されている方々を講師に招き、物語にまつわる多様な文化・思想・時代背景等を紹介します。多数の方の受講をお待ちしております。

第1回	5月11日(日)	朗読 ～京ことばで味わう源氏物語～	北山 たか子氏 (朝日放送劇団出身、元声優)
第2回	5月18日(日)	装束 ～女房装束(十二単)～	寺石 勲氏 (風俗博物館事務局長)
第3回	5月25日(日)	歴史 ～紫式部からのメッセージ～	瀧浪 貞子氏 (京都女子大学教授)
第4回	6月 1日(日)	料理 ～創作平安王朝料理～	堀場 弘之氏 (京料理六盛3代目当主)
第5回	6月 8日(日)	楽器 ～雅楽器に生きる巧みの技～	山田 全一氏 (雅楽器博物館長 雅楽器師)
第6回	6月15日(日)	お香 ～雅びなるもの、その継承～	濱崎 加奈子氏 (伝統文化プロデュース連代表)
第7回	6月22日(日)	能 ～今に生きる源氏の恋～	河村 晴久氏 (能楽師親世流シテ方)
第8回	6月29日(日)	源氏絵 ～千年の系譜をたどる～	四辻 秀紀氏 (徳川美術館副館長)
第9回	7月 6日(日)	舞踊 ～源氏物語を舞う～	岡田 万里子氏 (大妻女子大学講師)
第10回	7月13日(日)	伝統建築 ～平安期より現代に伝わる技術～	千田 日出雄氏 (奥谷組代表取締役社長)

京都アカデミア叢書の紹介

京都学術共同研究機構では、共同研究の推進を通して導かれる研究資源の共有と研究成果の公開を目的として、京都アカデミア叢書を刊行しています。京都アカデミア叢書は、一般向けの公開講座である「プラザカレッジ」等の内容を紙面に採録し、京都における知を多方面に発信する教養書です。各講座を一つのテーマとして編纂し、京都地域の持つ歴史、伝統、文化のみならず、現代社会が直面する問題の特性をまとめ、シリーズ化しています。「プラザカレッジ」の受講生の学びなおしの素材として活用いただくだけでなく、多彩な学問に関心を抱ききっかけになればと願っています。

京都アカデミア叢書は、キャンパスプラザ京都1階受付でお買い求めいただけます。また、第2号「歌のころ ひとの心」、第3号「ころのチカラ」については、京都市内大型書店、大学生協・書店でもご購入いただけます。是非ご利用ください。



京都アカデミア叢書 創刊号

「京都学 みやこに貢献するアカデミズム」

定価 600円(税込)

若い人をひきつける京都には、歴史、文化、芸術、芸能、工芸、技術、自然美など他の都市には決して真似のできない学びの実践的な環境が整っています。大学と京都の共存関係とその未来をあらためて問いかける一冊です。



京都アカデミア叢書 第2号

「歌のころ ひとの心」

定価 1,400円(税込)

うつろう季節、まどう恋、そして人生の哀歌。「古今和歌集」「新古今和歌集」は、日本古典文学の精華であり、美意識と叙情の至宝でもあります。第一人者たちが、人のころが綾なす千年の歌のころを思いながら、京都を舞台に語る和歌のエッセンスです。



京都アカデミア叢書 第3号

「ころのチカラ」

定価 1,000円(税込)

強く、繊細、そして、壊れやすく脆い、それが「ころ」です。各界8人の知性が語る現代「ころ学」の入門編です。私たちが日々の生活の中で失いかけていた「ころ」を、今一度、深く見つめることにより、明日を生きるための新たな力を呼び起こします。

京都女子大学・短期大学部の秘密を探る！

私は、京都女子大学短期大学部英語・英文専攻一回生の奥田充希です。最近では学校で行われた企業セミナーに参加したり、進路・就職課で面談をしていただいたりして、段々内容の濃い就職活動が始まってきた中で、私がインターンシップ・プログラムのトライアルコースに参加しようと思ったのは、職業に対する意欲を高め、今後の進路に活かせるようにするためです。そして、大学コンソーシアム京都に実習することになり、実習内容として自分が通っている京都女子大学（以下「京女」という）に訪問し紹介記事を書くことになったのです。この機会に京女の「キラッ」と輝くところを紹介したいと思います。

新型ソーラー発電システム導入～自然の力に学ぶ～

京都女子大学附属小学校の屋上に、国内の女子大学では大規模の新型ソーラー発電システム（20kW級、ソーラーパネル112枚 by京セラ）が設置されました。

この装置で、小学校が年間消費する電力量の約17%をまかなうことができるそうです。同小学校の翁長教頭は、児童にエコ環境の大切さと太陽による発電の素晴らしさ、地球環境の問題を体感しながら学習する機会が与えられるとの説明がありました。



90%を超える就職率～安心できる進路・就職課～

インターンシップに参加する学生や講演会の参加率が高いこと、定員制の講座の申し込みが早くに終了してしまうことなどから就職意識の高さが京女の伝統であり、毎年大学、短大ともに90%を超える就職率をキープしています。そして、京女の進路・就職課には、企業の人事担当者や先輩たちからの貴重な情報がたくさん集まっています。今回、進路・就職課職員の方々に、90%を超える就職率の高さの秘密についてインタビューをいたしました。

Q、一日の進路・就職課の利用者はどういう状況ですか？

A、毎日学生が利用しています。特に、講演会やテスト期間は多いですね。

Q、京女には多彩な求人情件があると聞いたのですが、毎年何件くらい求人かきていますか？

A、今の段階（2月中旬）では、大学だけの求人情件数は去年で1800件くらいですが、今年で約1950件に達しています。大学・短大共通の求人情件数は2800件を超えています。短大だけの求人情件数はだいたい650件くらいです。また、求人が多いのも先輩たちが築いた京女への信頼があるからです。

Q、求人情報を利用して就職を決める人が多いですか？

A、はい。やはり本学にくる求人なので、安心して就職活動ができますからね。

Q、京女の進路支援としてよいところはありますか？

A、他大学より大規模のわりに個人々人との連絡が多いことですね。今はどういう活動中で、どういう状況なのかなど、マンツーマン体制で一人一人をしっかりサポートしています。

求人数の多さと進路・就職課のマンツーマン体制が、安心感と京女の就職率を高めているようです。



京女の学食～A地下食堂～

A校舎地下学生食堂、通称「Aチカ」は雰囲気も良く、京女のキャンパススポットランキングで1位です。京女の食堂は安くておいしいと人気です。それでは今から人気メニューを紹介します。



人気メニュー

◆アジアンランチ(夏版) ￥400

……春巻き、冷製ラーメン、杏仁豆腐セット

◆ふわふわオムライス ￥360

……三種類の中からソースが選べられます。

……二種類のソースをハーフ＆ハーフにかけてもらうこともできます。

◆デラックス中華 ￥290

……京女名物、通称「デラチュー」はA地下でも人気メニュー。から揚げも入っていてボリューム満点！

他にも京女には、錦華学生食堂、カフェ&ベーカリーショップ「EST MONTE」などがあり、安くて美味しい食堂が学生生活を優しくサポートしてくれています。



記者後記

小学生という段階で、新型ソーラー発電システムの設置により、小学生の児童らが地球環境に興味を持ち、自然の力の不思議、太陽から電気ができる驚き、石油や電気の大切さを身近に感じることで豊かな感性や知性を育み、将来の日本の環境問題を意識づけるきっかけとしてすばらしい試みだと感じました。私自身も今回の取材で地球環境について改めて考えさせられ、身近にできるエコ環境に貢献したいと感じました。

進路指導における京女の強みとは、一人一人をしっかり指導して下さる進路指導のもと、やはり伝統ある就職率の高さ、全国規模にわたる求人情数の多さ、先輩方が築かれた企業への信頼感であるようです。また短大の就職率が90%を超えているのは京女の強みだと思います。

今後の京都女子大学でのキャンパスライフを有意義に楽しみ、また今回のインターンシップを通して学んだことを今後の生活に活かしていきたいです。

大学コンソーシアム京都のインターンシップとは、実際の職場で働き、教育研究との融合による学習意欲の喚起、高い職業意欲の育成、自主性、独創性のある人材育成を目的とした教育プログラムで、ビジネス・パブリック・プログレス・トライアルの4コースがあります。今回のトライアルコースは、短期大学生や四年制大学の低年次生に対し、今後の学生生活を送る上で、職業観や自らのキャリア形成に関する「気づき」を得ることを目的とするため、冬から春にかけて短期間で行われます。

プリンセスラインバス



混雑する京都駅～東山七条間の路線を解消するために、このバスが平成15年に計画されました。このバスで京女や四条河原町、JR京都駅に行くことができ、一般の人にも利用できます。平日一日に約100本が運行されています。

単位互換事業 (文部科学省「平成16年度 特色ある大学教育支援プログラム」採択)

◆「大学連携による新しい教養教育の創造
～京都地域における単位互換制度～」研究成果報告会

京都地域の単位互換制度が2004年度の文部科学省特色GPに採択されたことを受け、GP申請大学・短期大学では研究プロジェクトを設け、この間、単位互換制度の質の高度化と大学連携で行なう教養教育のあり方に関する研究を行なってきました。今回の研究成果報告会は、採択期間の終了にあたり、広く高等教育関係者を招いて開催したものです。

なお、研究に際しては本財団に設置されている高等教育研究センターの連携型教育システム研究プロジェクトにおいて、「連携型教育システムの高度化に関する研究」として有識者による研究会を立ち上げて研究をサポートし、本報告会についても研究協力の立場で実施運営にあたりました。

【日 時】2月16日(土) 13:00～17:30
【場 所】キャンパスプラザ京都
【主 催】特色GP申請42大学・短期大学
【参加人数】57名

◆基調講演◆

「21世紀に求められる人材とそのための学士課程教育のあり方」
川嶋太津夫氏(神戸大学 大学教育推進機構教授)

◆成果報告◆

各ワーキング(科目の体系化、授業評価、OCW、大学院連携)からの成果報告



リエゾン事業

◆「きょうと連携交流ひろば2008(京都ビジネス交流フェア2008)」

大学・金融機関・企業連携グループなどが集まり、展示やプレゼンテーションを通して新しい連携を促進する本事業について、本財団からもブース出展を行いました。

【日 時】2月21日(木)・22日(金)
10:00～17:00
(2日目は16:30終了)
【場 所】京都府総合見本市会館
(ハルスプラザ)



共同研究事業

「京都学」「21世紀学」「都市政策」の3分野において共同研究推進、研究資源の公開、研究成果の発表、研究支援事務体制の構築、若手研究者の育成などを行っています。また、地域社会や市民への知の還元・情報発信を行う目的で「プラザカレッジ講座」の開講や「京都アカデミア叢書」の発行など様々な取り組みを行っています。

◆プラザカレッジ21世紀学特別講座「地球環境問題連続セミナー」

市民一人ひとりが地球環境問題に理解を深め、具体的な行動に移していく契機となることを目的に開講しました。総受講者数 371名

第1回	2月22日(金) 18:30～20:30	①「地球温暖化の影響と適応 —IPCC第四次評価報告書を読む—」 原沢 英夫氏(国立環境研究所・社会環境システム研究領域長) ②「2013年以降(京都議定書第一約束期間後)をめぐる 国際交渉の動向」 高村ゆかり氏(龍谷大学法学部教授)
第2回	2月29日(金) 18:30～20:30	①「温暖化対策はどこまで進んだか」 大島 堅一氏(立命館大学国際関係学部准教授) ②「私たちができる温暖化防止の取り組み」 鈴木 靖文氏(有限会社 ひのでエコライフ研究所 代表取締役)
第3回	3月 7日(金) 18:30～21:00	パネルディスカッション 「私たちのまちの温暖化政策を考える」 【司 会】西村 智朗氏(立命館大学国際関係学部准教授) 【パネリスト】田浦 健朗氏 (特定非営利活動法人気候ネットワーク事務局長) 鈴木 理夫氏 (京福電気鉄道株式会社事業本部鉄道部沿線活性化担当部長) 小幡 範雄氏(京のアジェンダ21フォーラム幹事長) 水谷 洋一氏 (静岡県地球温暖化防止活動推進センター事務局長) 高畑 重勝氏 (京都市総合企画局地球温暖化対策室企画担当課長)

学生交流事業

◆京都学生アートオークション

京都の芸術系10大学の学生・大学院生を対象として、「芸術家」を目指す学生・大学院生のキャリア教育の一環として、昨年度より開始された「京都学生アートオークション」。今年はキャンパスプラザ京都で開催しました。プレビュー期間中は出品学生が積極的に来場者に作品を説明し、オークション当日では、プロのオークションニアがハンマーを振り、本格的なオークションを体験して頂くとともに、芸術作品を身近に感じて頂く機会となりました。

【日 時】2月12日(火)～2月17日(日)
プレビュー… 9:00～21:00[2月12日(火)～16日(土)]
… 9:00～14:00[2月17日(日)]
オークション… 15:00～18:00[2月17日(日)]
【場 所】キャンパスプラザ京都1階 情報交流プラザ
(オークション会場:キャンパスプラザ京都2階 ホール)
【主 催】財団法人大学コンソーシアム京都
【企画運営】京都学生アートオークションワーキンググループ
【企画運営補助】京都学生アートオークションボランティアスタッフグループ
【協 賛】株式会社フラットエージェンシー、フィネ ジャパン、
MHDディাজオモエヘネシー株式会社
【協 力】株式会社AGホールディングス
【後 援】京都商工会議所、社団法人京都経済同友会
【来場者数】プレビュー 521名
オークション 85名
合計 606名



国際交流事業

◆京都迎賓館訪問の催し

海外から来られている研究者を対象として、日本と京都の文化を学び・理解していたくために実施しました。参加者は迎賓館の数々の伝統技能にふれることにより、日本の伝統文化への理解を深める機会となりました。

【日 時】1月23日(水)・24日(木) [午前] 10:00～12:00 [午後] 13:30～15:30
【場 所】京都迎賓館
【参加人数】39名

京都の大学「学び」フォーラム2008

高校と大学の「学びの接続」を開催趣旨として、大学コンソーシアム京都に加盟する大学・短期大学の多様な分野の模擬講義や体験型講座、大学相談ブースなどを通じて、「興味ある学問分野の発見」「学習意欲の喚起」「偏差値に代わる進学目的の明確化」など、将来のキャリアデザインを考える機会を創出することを目的に、キャリア教育プログラムとして開催しています。

開 催 日 6月22日(日) 10:00～15:00(入場開始9:30～)
会 場 龍谷大学 瀬田学舎(JR瀬田駅よりバス8分)

企 画 概 要	プログラム	主な対象者		
		高校生	保護者	高校教員
① 模擬講義		○	○	○
② 体験型講座		○	○	○
③ キャリアデザイン講座		○	○	○
④ 保護者対象講座			○	○
⑤ 高校生・保護者のための進学対策セミナー		○	○	○
⑥ 高校教員のための入試対策企画				○
⑦ 地元卒業生との交流コーナー		○	○	○
⑧ 大学相談ブースコーナー		○	○	○
⑨ 海外留学生との交流コーナー		○	○	○
⑩ 海外留学相談コーナー		○	○	○
⑪ キャンパスライフ紹介コーナー		○	○	○

Information

近日開催予定の行事・イベント

詳しくは、財団法人 大学コンソーシアム京都 (<http://www.consortium.or.jp>) を参照してください。

「京都の大学『学び』フォーラム2008」開催概要

日 時	会場	会場名	ブース開設時間
6月22日(日)	滋 賀	龍谷大学(瀬田学舎)	10:00~15:00
10月 5日(日)	福知山	京都創成大学	11:00~16:00
10月25日(土)	京 都	大谷大学	9:00~15:00

京都ワンキャンパス(共同広報)開催概要

日 時	会場	会場名	ブース開設時間
7月 5日(土)	東 京	日本武道館	10:00~16:00
7月19日(土)	大阪【新規】	大阪城ホール	10:00~16:00
8月 5日(火)	名古屋	吹上ホール	11:00~16:00

カウンセリングマインド研修

昨今の学生を取り巻く社会環境、学生の意識・対人能力の変化に伴い大学の窓口対応も変化してゆく必要が生じています。大学コンソーシアム京都ではカウンセリングマインド研修を開催し、学生とのコミュニケーションの円滑化を図り、窓口対応の適切化を図ります。

また、研修を通じて参加者相互の交流を図り、大学間の人的ネットワークを広げられることも本研修の魅力の一つです。

開 催 日	8月5日(火)	9:45~17:15
会 場	キャンパスプラザ京都	
募集人数	20名(但し、応募者が16名未満の場合は開講を中止することがあります。)	
受講料	8,600円(加盟大学)・13,600円(非加盟大学)	
募集期間	4月1日~7月4日(必着)	

マーケティングマインド研修

大学全入時代を間近に控えて、大学職員においてもマーケティング思考力を身に付け、自ら問題を発見、分析、解決する能力が必要となってきます。

本研修では、マーケティング戦略の基礎知識を学び、自らの大学等を事例にして実践的にマーケティング戦略を生み出すプロセスを学んでいただきます。

また、研修を通じて受講者間の交流を深め、大学間の人的ネットワークを形成することが出来るのも魅力です。

開 催 日	8月7日(木)	9:45~17:15
会 場	キャンパスプラザ京都	
募集人数	20名(但し、応募者が16名未満の場合は開講を中止することがあります。)	
受講料	16,500円(加盟大学)・23,500円(非加盟大学)	
募集期間	4月1日~7月4日(必着)	

ロジカルシンキング研修

会議、上司への報告、プレゼンテーションなどを効率的に行うためには、様々な情報を適確に整理し、筋道を立てて考える力(ロジカルシンキング)が不可欠です。大学コンソーシアム京都では、中堅職員以上の方を対象に論理的思考力を養い、自らの思考を効果的に表現する方法を養成するロジカルシンキング研修を開催いたします。

開 催 日	8月8日(金)	9:45~17:15
会 場	キャンパスプラザ京都	
募集人数	20名(但し、応募者が16名未満の場合は開講を中止することがあります。)	
受講料	8,600円(加盟大学)・13,600円(非加盟大学)	
募集期間	4月1日~7月4日(必着)	

タイムマネジメント研修

仕事における生産性の向上を図るために、効率的な計画の立て方から仕事の優先順位をつける方を学び、これによって短時間でより高い効果を生み出すことを目的としてタイムマネジメント研修を開催します。

また、研修を通じて受講者間の交流を深め人的ネットワークを広げられることも本研修の魅力の一つです。

開 催 日	9月2日(火)	9:45~17:15
会 場	キャンパスプラザ京都	
募集人数	20名(但し、応募者が16名未満の場合は開講を中止することがあります。)	
受講料	10,700円(加盟大学)・17,700円(非加盟大学)	
募集期間	4月1日~7月4日(必着)	

リーダーシップ研修

常に成果が求められる現在の職場環境において、中堅職員には部下のやる気を高め、仕事の生産性を向上させるリーダーシップを発揮することが強く求められています。

大学コンソーシアム京都では、中堅職員としての果たすべき使命を再確認し、心理分析によって現状における自分の強み・弱みを把握し、職場で実践できるリーダーシップ行動やスキルを実習やワークを通じて習得する、リーダーシップ研修を開催します。研修を通じて、受講者相互の交流を深め、人的ネットワークを広げられることも本研修の魅力です。

開 催 日	9月5日(金)	9:45~17:15
会 場	キャンパスプラザ京都	
募集人数	20名(但し、応募者が16名未満の場合は開講を中止することがあります。)	
受講料	8,600円(加盟大学)・13,600円(非加盟大学)	
募集期間	4月1日~7月4日(必着)	

第6回京都学生祭典

京都の経済界、行政、大学コンソーシアム京都を始めとする大学界がサポートする京都学生祭典は今年6回目を迎えます。

「第5回京都学生祭典」では、実行委員、おどろきなど1,000人の学生の力によって2日間で215,500人もの方にご来場いただき、大成功をおさめました。

「第6回京都学生祭典」では、「祭りてつなげ!~ひと・地域・未来の架け橋~」をコンセプトに、2008年10月11日(土)、12日(日)の開催に向け、実行委員を募集しています。京都学生祭典実行委員の活動は、協賛活動、企画運営、広報活動など学生の手で行います。熱い思いを持っている方、何かを始めたいと思っている方、一緒に京都を盛り上げていきませんか?

お問い合わせ先
京都学生祭典実行委員会
Tel:075-353-9432
E-mail: festa@consortium.or.jp



新実行委員募集中!

インターンシップにチャレンジする学生・大学院生の募集について

大学コンソーシアム京都は、大学・短期大学が多数集積するスケールメリットと、産業界、行政機関、地域社会とのネットワークの強さを最大限活かし、1998年度よりインターンシップ・プログラムを実施しています。これまでに4,500名を超える学生と延べ2,000名を超える企業・団体・機関などが参加し、双方にとって高い効果を上げてきました。インターンシップ生を対象にした事後アンケートでは、約9割が満足と回答しています。「自分を変える、世界観をかえる」—そんな想いを持ってインターンシップにチャレンジする学生、短大生、大学院生の皆さんを2008年度も下記の要領で募集します。

- 大学コンソーシアム京都のインターンシップの魅力
 - ・豊富な受入れ先と10年間におよびプログラムの経験で実習生をサポートします。
 - ・京都地域の教員・職員が「事前学習」と「事後学習」を通じて徹底指導します!
 - ・多様な大学・短期大学、学部、回生の学生が集い、学びあう充実の学習環境を提供します!

■ 募集するプログラムのご紹介

- ・「ビジネスコース」
8月から9月中旬にかけて2週間から1ヶ月程度、企業で実習する実践型インターンシップ。
- ・「パブリックコース」
8月から9月中旬にかけて2週間から1ヶ月程度、行政機関、非営利組織で実習する実践型インターンシップ。
- ・「プロダクトコース」
6月から12月の半年間、企業や行政、非営利組織が提示したテーマに沿って行うプロジェクト型インターンシップ。
- *「トライアルコース」(四年制大学1・2年制次、短大生を対象とした短期体験型の冬期インターンシップ)は9月中旬に出願票を配布します。

■ 応募方法

まずは、各大学・短期大学、キャンパスプラザ京都で配布する「2008年度インターンシップ生募集ガイド」を入手してください。本財団ホームページで受入れ先情報を検索し、希望するコース、実習希望先を決め、「出願票」を記入してください。
出願受付は、5月9日(金)10日(土)にキャンパスプラザ京都で一斉に行います。

Campus Scene

京都経済短期大学



京都経済短期大学は、学生と教職員の距離がきわめて近く、開学以来の1学年定員150名(男女共学)という少人数制を最大限に活かし、教職員が全学生の名前と顔、そして性格や適性までも把握した上で指導にあたっています。

経営情報学科を有する同学では、企業の声を多く採り入れた実学重視のカリキュラムのもと、経営学の理論をベースにコンピュータを活用する高度な実務能力と、それを経営に活かす応用能力を総合的に身につけていきます。